



# たけ こ えが 竹の子を描く

2024/4/19

No. 6

岩渕和信

毎年、春は多くのご家庭からタケノコを届けていただいています。図工の学習で、毎年恒例になっている「タケノコの絵」を描くためです。今年もたくさんのタケノコをいただきました。先生と対話しながら、子どもたちが楽しそうに描いています。

「所詮、絵の真なので、タケノコのおんなじ色が出せるとは限らないよ」

「そうだよねえ」「そうか」

「丁度いい色ができたらさあ塗ろうってやっていると、明日になっちゃう」

「明日！」笑っちゃいます。

「だから自分にとって、これいいかなっていうのができたら、どんどん塗っちゃう」

「んー、この色いいかな」



「タケノコは下から上に生えているわけだから」

「うん」

「筆の向きも下から上に向けて塗るといい、かもしれない」

「かもしれない？」

やってみて、自分で納得しながらコツをつかんでいく。

色作り、筆づかい、思い切って試行錯誤しながら一人一人のタケノコが紙の上に現れていきます。

失敗をしていないということは、新しいことに挑戦していないということである。

(吉藤オリィ)